



第57号  
H25年6月24日

発行 結城地域農業改良普及センター  
TEL 0296-48-0184 FAX 0296-48-2682  
HP <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/noucenter/fukyu/yuki/>  
<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kensei/yuuki/index.htm>



## 忙しい農家生活にゆとりと安らぎを！！ -農村女性ネットワークゆうき総会&研修会-



コサージュ作成中



コサージュを身に着けて

5月31日（金）、普及センターにおいて、農村女性ネットワークゆうきの総会と研修会が、女性農業者27名の参加により開催されました。

研修会では、専門の講師を迎えコサージュ作りを行いました。細かい作業もあり苦勞する場面もありましたが、お互いに教え合いながら全員がコサージュを完成することが出来ました。最後には、自分で作ったコサージュを身につけて集合写真を撮影しました。

今後も農村女性ネットワークゆうきでは、忙しい農家生活にゆとりと安らぎを与える研修会を開催していく予定です。



## 麦の品質向上を目指す！-麦湿害現地検討会-



6月6日（木）、常総市内の現地圃場において、普及センター主催の麦湿害対策現地検討会が開催されました。常総市内の麦作農家及び市水田農業支援センター、県の農業研究所等関係者30名が参加し、湿害対策に有効な作溝同時播種技術により播種された小麦圃場において、その効果を実際に確かめながら意見交換を行いました。

作溝同時播種技術とは、播種機に作溝ディスクと成形板を装着し、施肥・播種と同時に、播種機の幅毎に溝を掘り小明渠を設置する方法で、新たな作業工程が不要で排水性が向上するメリットがあります。

普及センターでは、この技術を利用した圃場と、利用しない慣行栽培の圃場の調査結果を比較し、技術利用圃場では、穂数が5～20%多く、土壌水分計による計測でも、排水効果が認められたことを説明しました。

当地域で有効なこの湿害対策の実証普及をとおして、管内で生産される麦の品質・収量の向上を支援して参ります。



現地検討会の様子



## エコ農業を推進！-結城土づくり講習会-



6月4日（火），JA北つくば結城青年部園芸部を対象に土づくり講習会を開催しました。当日は快晴で，絶好の農作業日和にもかかわらず，若手農業者20名の参加がありました。

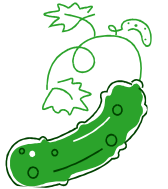
まず始めに，近年の土壤診断結果に基づき，普及センターから当地域の露地野菜ほ場の特徴について説明した後，園芸研究所土壤肥料研究室から，「堆肥の肥料効果を考えて使い方～施肥設計への応用～」と「秋レタスにおける診断施肥技術」について，研究成果を報告していただきました。

堆肥利用については，近年，肥料価格が高騰していることからコスト削減に繋がる技術として関心が高く，効率的な散布方法について意見交換ができました。また，当地域はレタス栽培が盛んなため，診断施肥については現地試験の栽培概要や詳細な結果についての質問が出されるなど，非常に興味を持っていただいたようでした。

普及センターでは今後，園芸研究所等と連携し，結城市内でレタス診断施肥の実証ほを設置する予定であり，今後も，若手農業者などへ環境にやさしいエコ農業を推進していきます。



## キュウリ産地における最近の取り組みについて



葉のえそ斑点と黄化症状

近年，近隣のキュウリ産地では，アザミウマがウイルスを媒介するキュウリ黄化えそ病が発生し，その対策が課題となっています。

普及センターでは，昨年度から部会や種苗会社等に対して，キュウリ黄化えそ病の特徴や対策について口頭での説明や資料配付を行い，周知を促してきました。また，今年度はアザミウマ対策として，天敵（スワルスキーカブリダニ）を導入した実証ほを設置し，試験を実施しています。

今後は，実証ほの結果等を踏まえて，より効果的な病害虫の防除技術を生産者や関係機関と連携しながら，検討していきます。

### 病害虫ノート

### 小さな体で大きな被害！ -アザミウマ類-

アザミウマには，ミカンキイロアザミウマ・ミナミキイロアザミウマ・ネギアザミウマ・ヒラズハナアザミウマ等，様々な種が存在します。これらは，広範な種類の野菜や花きの葉・花・果実等を加害し，商品価値を低下させるほか，キュウリやトマト等の病気の原因となるウイルスを媒介するため，適切な防除が必須です。

防除のポイントは，発生源となる圃場周辺の除草を徹底し，必要に応じて薬剤散布を行うことです。ただし，薬剤を散布する際はラベルをよく読み，使用方法に十分注意してください。

今後は気温の上昇に伴い増殖が速くなります。多発生すると防除が困難になるので適期防除に努めましょう。

